

ボランティア仲間金ヶ江橘郎さんのご逝去を悼む

若林茂男(三井住友海上OB)

金ヶ江さんがこの2月に亡くなりました。小生がお付きを頂いた期間は10数年にもなり、三井V-Netのエリザベスサンダーホームの庭仕事、由比ヶ浜や多摩川河川敷の清掃、横浜国大留学生との交流活動、更にはメンバー親睦の日帰り旅行での金ヶ江さんのお姿が、今もありありと思い出されて来ます。

隔月行われるエリザベスの広い庭の清掃活動では、80才を過ぎても背筋をピンと伸ばし率先して清掃作業をされ、終了後の昼食会では焼酎をうまそうに啜られ、季節毎の長老挨拶では、メンバー相互の融和と一期一会のお付きを熱く語りかけていました。二次会にも先頭を切って参加、酔うほどに怪気炎を上げ故郷の佐賀弁で取り巻くメンバーを煙に巻いていました。事務局(三井V-Net)にも以前は度々顔を出され、元理事長の宮沢さんには過って、“君は酒を飲むために活動に参加しているのか、それともその逆か?”と質問されたとか、その顛末をお聴きしていないのが残念であります。

そうです、同ホームの創設者澤田美喜“イズム”の啓蒙(?)にも努めておられた。

多摩川河川敷や由比ヶ浜の清掃活動でもスタンスは変わらず、作業開始前に旨そうに煙草を吸っておられた姿は一幅の絵でありました。帰りの電車の中では度々、会社時代のお話をお聴きしましたが、主に同僚仲間との飲み会にまつわる話でありました。

横浜国大留学生との対一交流活動にも参加され、得意(?)の日本語を駆使して、韓国や中国の留学生(女性が多い)を相手にトクトクと日本文化や特に礼儀作法について薫陶を垂れられていました。そして、エリザベスの清掃活動にも留学生を同行され、ご満悦で活動と昼食会を共にされていました。金ヶ江さんの遠いご先祖の血(?)がと思う心配りでもありました。

金ヶ江さん、いやはや長年に亘り、楽しい雰囲気をお我々の活動に注入し続けて頂き、有難うございました。今後も皆で、金ヶ江さんが敷かれた一期一会の精神を引継ぎ大切にして、活動を盛り上げて行きたいと思う次第です。

合掌



(サンダーホームにて 故金ヶ江氏)



(サンダーホームにて 筆者若林氏)